

第 37 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会幹事会
議事録

1. 日時：平成 28 年 11 月 22 (火) 10:00-12:00
2. 場所：日本工学会 (森戸記念館 第二会議室)
3. 出席者：(アンダーラインで示す、なお以下敬称略) 広崎膨太郎、石原直、武田晴夫、秋永広幸、渡邊 誠、加藤穂慈、京谷美代子、田辺朗、松村正明、持田侑宏
奥津良之 (文責)
4. 配付資料
 - 資料 37-1 ECE プログラム委員会名簿(H28. 11. 22 版)
 - 資料 37-2 第 36 回 ECE プログラム幹事会議事録 (H28/9/27)
 - 資料 37-3 エレキ・イノベーション人材 ECE プログラム Feasibility Study (第一回) 議事メモ (案)
 - 資料 37-4 CPD 協議会 会議等開催予定
 - 資料 37-5 CPD 協議会シンポジウム平成 28 年度第 2 回 Agenda
 - 資料 37-6 SICE プロセス新塾 2016 経過報告資料&相互確認の方法資料 (各 1 頁)
 - 資料 37-7 日刊工業新聞 2010 年 1 月 6 日朝刊切り抜き/「工学版ノーベル賞創設へ」

5. 前回議事録 (案) 確認

資料 37-2 に基づき奥津幹事長から第 36 回 ECE プログラム委員会拡大幹事会議事録(案) が紹介され、次の事項を追加して、議事録として承認された。

(修正事項) 「⑤に関して、教育対象はどなたか?の質問に対して広く募集し受講属性資格を特に限定せず、また IoT 技術は広範囲に亘るが、どこに教育焦点を絞るのか?の質問に対して、AI に焦点を絞り、その材料/デバイス/プロセス integration/Architecture を網羅する教育体制としたい。」を追加する。

6. 委員確認

資料 37-1 に基づき但田委員が本務ご定年のため本委員会を辞されたことを含め、委員会・幹事会メンバーの確認がなされた。

7. 各報告

●NIMS 渡邊委員より物質・材料基礎 ECE プログラムの実施状況について口頭報告があった。

10 月に 2 日間開催された NIMS 東京フォーラム大会を利用してイーブニングセミナーを実施したこと、来年 2 月には男女共同参画会議と連携してのセミナーを鋭意準備中であること、が報告された。 なお来年度についても ECE プログラム継続申請する予定である。

●SICE 奥津委員より、資料 37-6 を用いてプロセス新塾の進捗につき順調に推移している旨報告があった。特徴的事項として①受講生間で本年度から実施している相互確認タイムの進め方と 好評であること、②毎年目立つスーパー受講生に対して、講師をお願いしたい、論文を執筆支援したい、などアイデアが WG で進んでいるが、とりあえず本年度の修了式で SICE

ネクタイピン（4000円拡大WGの寄付金で賄う）を1～2名に授与して、称える試みを実施する方向。なお、来年度についてもECEプログラム継続申請する予定である。

●資料 37-3 エレキ・イノベーション人材 ECE プログラム Feasibility Study（第一回）議事メモ（案）に基づき、奥津幹事より経過説明があり情報を共有した。

●補足資料として TechShop Tokyo/ Shopguide が石原副委員長より回覧された。

(<http://www.techshop.jp> あるいは <https://www.facebook.com/techshopjapan/>)

●秋永委員より、IoT教育についてNEDOと産総研が協同して教育プログラムを作り上げる準備活動について進捗紹介があった。「NEDO-IoT推進室」のKEYマンと話が進んでいる。なお、本関連委託研究がNEDO委託研究として採択された。来年2月に座学・実習を含んで試行をおこなう。（2017年2月23、24日の予定 IN NEDO）現在その実習のマスターパターンを設計中である。これらを積み上げてゆき 3年後を目途にECE化したい。

本件につき12月8日経済産業省ボードメンバーにも説明を行う予定（於 つくば）

この委託研究の特徴は ソフトではなくハードに FOCUS されていて、Device 屋が声を大にしている点を特記願いたい。

●石原副委員長から 国内開発状況の指摘があり、①ほとんど日本国家研究予算が情報系開発に流れている。②デバイスは海外のものを使えばいいと考える企業経営者が多い。IBM, HP, Google の Platform を使うのでいいではないか？③それでは日本は勝てない。（Facebook 単独社の研究予算はNEDOの委託研究予算の数倍である。）とのご指摘が披露された。

この状況にあって DEVICE 重視の秋永委員はいわば反旗を翻しているのであり、応援したい。

●「エレキハード技術者の育成が急務と考えられる。とくに生産技術力低下は日本国として今や喫緊の課題になった。京谷委員、武田委員、石原副会長/アドバイザー、（奥津幹事）で組んだタスク検討を加速したい。産業界で最も懸念されているこの事態を憂慮し、その払拭に向け工学会として第一歩を踏み出してみよう、との幹事会決議を再確認した。

各委員は京谷委員の紹介を受けた Nanodegree の MOOC を一度チェックのこと。

<https://www.udacity.com/course/data-analyst-nanodegree--nd002?v=a4>

現状の ISSUE を各員が披露し、さらに問題意識につき学習を進めた。エレキ・イノベーション人材 ECE Feasibility Study 活動は秋永委員 IoT ECE 開発活動とも深く関連していることが今回明確になった。

次回（第38回会合）は2017年

1月24日（於 森戸記念館）15:00～17:00 を申し合わせて閉会とした。

以上